うっきーの突撃レポート

“就農１０年目！原田慎司さんの畑に密着”

協議会・食育委員長で食育指導士うっきーこと西本葉子さんに、今回は協議会・生産者会員の原田慎司さんを取材していただきました。ホームページにも掲載しますが、会報でも報告させていただきます。うっきーさんの分かりやすい文章をご賞味ください。

食育指導士うっき一西本葉子です。
原田慎司さんは秋川牧園の生産者のお一人で防府市に 10ha の農地を持つ若手就農者。2023年で就農10年目を迎えられます。

サラリーマンから林業を経て農業へ転身！異例の経歴！

サラリーマン時代に農業に興味を持って、まずは友人の手伝いから始めた原田さん。脱サラ後は林業で働きながら、空いた時間に農業をしていたそうです。そして山口県立農業大学校の週末に学べるコース「やまぐち就農支援塾」へ一年間通って、農業の仕事を増やしていき、稼げる専業農家へ見事な転身を果たします。

「林業に比べたら農業は楽です。」と語る原田さん。「山の中へ道具を担いで登り、それから一人で作業をしていたことに比べたら、畑まで機械を運ぶのも車で行けるんですよ。僕は9時くらいから5時まで畑で仕事して、昼ご飯は家に帰って嫁さんと一緒に食べる。これが幸せです。」と頼もしい笑みを浮かべてくれました。

原田さんは年間 100t の有機人参を栽培し、就農希望者の研修も積極的に受け入れ、山口市からも若者が参加しています。

人参の他に、玉ねぎ、サツマイモ、里芋などを化学合成農薬や化学肥料を使用せずに露地栽培をしておられます。

地域の中で後継者のいない畑を引き継ぎなから農地を拡大。畑を守ることが昔ながらの景観を守ることに繋がると地域への思いも原動力。

山口県有機農業研究会･会長に就任 原田さんの活躍に期待が高まります！

原田さんは秋川牧園が事務局を務める「山口県有機農業研究会（有機研）」の会長にこの度就任されました。そしてこの機に有機研は、県内の有機農業団体が結束し行政と協同して有機農業を推進する「山口県有機農業推進団体連絡協議会（有機連）」に復活。当協議会も有機連に所属しており、2022年12月に県庁で開催された県議さんとの意見交換会では同席させていただきました。若手就農者の原田さんの声により活気が生まれ、有機農業の発展と推進にさらなる飛躍が期待されます。

「実家が造園業だったので機械を効率よく使うことが頭にあったと思います。」

原田さんの畑は、ご自宅を囲むように広がり、家の横には野菜用の大きな冷蔵庫があって、生産・収穫・保存・流通の流れが効率よく回転しています。ご実家が造園業をされていたのを見て育ち「まず設備」が頭にあったから設備をしっかり作ったと話されました。原田さんの頭の中には計画的に畑を作って収益を上げる仕組みがあるんですね。そしてほとんどの畑で有機認証を取っているのも立派です。（※原田さんの畑は全て農薬・化学肥料不使用です）

収穫が終わった人参は専用の冷蔵庫で保存

「有機認証は大規模でやらないと相手にされないからね。」

大規模で生産するために品目を絞ること、消費者のニーズに合っていること、そして自分が好きで作りやすい野菜を考えてこられたそうです。大規模にすることで地域の雇用にも貢献しておられます。

「ほとんど草抜きはしませんよ。」

有機農業といったら草抜きに追われるイメージがあると思うのですが、原田さんは草抜きに追われないような畑作りをしているそうです。

収穫が終わった畑は草が生えているのですが、それを耕運機で一気に土の中に漉き込んで、畝を作ってマルチを敷いて、また野菜を作るそうで、わざわざ畑の草を抜きに行ったりはしないとか。（そう聞くとなんだか簡単そうに聞こえるのですが・・・^^;）

マルチ敷きまで終わった畑。

畝の間には草は生えていない。

やがて野菜と共に畝間に草も育つがまた土に戻される。

SDGsの流れからも有機農業が注目！「儲からない・大変」といったイメージを打破してくれる若手生産者・原田さん

今回、原田さんにお話をお聞きして印象的だったのは楽しそうで幸せそうなお姿でした。自分の好きなこと、家族の時間が持てること、地域にも貢献できること、そして稼げる・・と言うのがその理由だと感じました。
農業は深刻な後継者不足が悩みの種ですが、こうした素敵な実例を広めて、若き就農者さんが増えていったらと願っています。

＜最後にイベント紹介＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「菌ちゃん農法実技＆講義」
講師：吉田俊道先生
5/26(金)15:00～18:00
※ 14:30 に山口市下小鯖に「小鯖ふれあい市」集合
参加費￥ 3000（定員 30 名）

やまぐち食育くらぶ主催/当会産直部会協力
＜お申込みお問い合わせ＞児玉 080-3055-4191